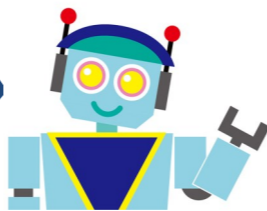


科学館ニュース



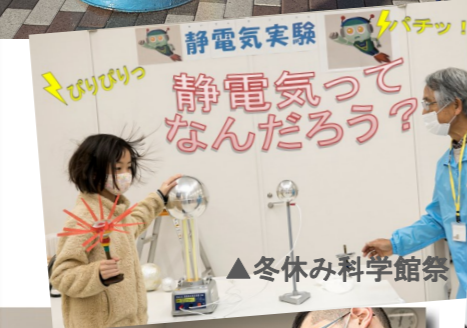
ありがとう! 開館1周年 これからも... みて ふれて つくって なっとく!



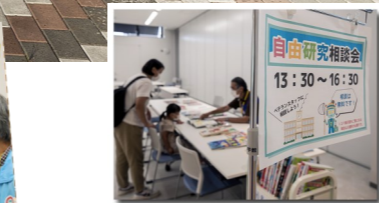
DENZA環境科学館が開館して1年。新型コロナウイルスの影響で、惜しくも入場制限などを行いながらの運営でした。

それにもめげず、3年ぶりに開催した科学の祭典をはじめ、室蘭こども環境フェス、夏休みや冬休みの科学館祭などに、たくさんの方が参加くださいました。

新しい年・2023年は、多くの皆さんに『みて、ふれて、つくって、なっとく』いただけるよう、新たなプログラムを企画していますので、どうぞご期待ください。



▲冬休み科学館祭 室工大『夢工房』の皆さんによるスポットサイエンス



▲火おこし体験(科学の祭典)



▲ファミリーサイエンス



流星がたくさん見られそう 2023年の天文現象

2023年は、流星がたくさん見られそうです。三大流星群のうち『ペルセウス座流星群』(極大:8月13日)と『ふたご座流星群』(極大:12月15日)は、月明かりの影響も受けず良い条件で観察できそうです。また今年は秋のオリオン座流星群(極大:10月22日)も期待されています。

昨年は、明けの明星として夜明け前の東の空で輝いていた金星が、宵の明星としてドラマを演出しそうです。3月2日には金星が木星と大接近して見えます。4月10日ごろにはおうし座のプレアデス星団に接近し、6月13日ごろにはかに座の散開星団プレセペに接近します。

昨年は皆既月食中に天王星食が見られましたが、9月21日には、さそり座の1等星・アンタレスが半月前(月齢6.4)の月に隠されるアンタレス食が起きます。



▲金星とプレアデス星団の大接近(2020年)

2022年は、皆既月食中の天王星食をはじめ、火星の最接近や惑星の集合などが観察できました。

さて、2023年はどんな天文現象が見られるのでしょうか。



好評のプラネタリウムの全天周番組。1月からは『天文台の星空～南半球チリの星月夜～』を投影します。

南米チリには、世界でもっとも夜空が暗い場所と言われる巨大な天文台があります。宇宙の謎を解き明かそうとする天文台から、いったいどのような星空が見られるのでしょうか。

1月のスポットサイエンス

| 開催日 | プログラム |
|-----------------|-------------|
| 14日(土) | 工作 スライム作り |
| 15日(日) | ボイスチェンジャー |
| 21、22日(土、日) | 静電気の実験 |
| 28、29日(土、日) | 工作 ウインドカー作り |
| ▼1月のファミリー・サイエンス | |
| 18、25日(水) | 雪だるま工作 |

※新型コロナウイルスの感染状況により内容等が変更になる場合があります。開催時間などくわしくは、当館ホームページをご覧ください。